

令和6年度 当別町子ども発達支援センター自己評価の結果について

【評価対象事業】

- ・ 保育所等訪問支援事業

【調査期間】

- ・ 令和6年11月25日～令和6年12月20日

【調査対象者】

- ・ 当別町子ども発達支援センター訪問支援員

【回答率】

- ・ 配布数：4部 回収数：4部 回収率：100%

*回答を分析し、次年度の改善に反映してまいります。

【評価】

- ・ 訪問支援員の体制整備につきまして、現在センターの支援員が一名欠員の状態なことから不十分であるといえます。
- ・ 業務改善、適切な支援の提供、関係機関や保護者との連携、保護者等への説明等、訪問先施設への説明等は、概ね適切に行っているという評価です。
- ・ 訪問支援員の体制が不十分でありましたが、保育所等訪問支援の利用希望に応えることができたと考えます。

【課題】

- ・ 今後も、よりお子様や保護者のニーズに沿った支援を行うことができるよう次年度に向けて訪問支援員の体制を十分に整えることが課題です。
- ・ お子様、保護者の皆様に安心して利用していただけるよう、訪問先施設に寄り添いお子様への共通理解を図りながら支援ができますよう、職員一人ひとりの専門性や資質向上及び意識の向上が引き続き課題と考えます。

【今後に向けて】

- ・ 訪問支援の際には、集団の中での様々な場面のお子様の様子を丁寧にみます。場面毎の対応、お子様の特性を踏まえた支援、関わり等、訪問先施設の職員の方々と懇談等重ね、一緒に考えながら、お子様への理解につなげていきたいと考えます。
- ・ 職員間で気が付いたことや、気になったことを共有し、支援について意見交換を行います。またセンター内での学習会、外部研修に可能な限り受講を希望します。個々でも学ぶ機会に触れながら自己研鑽に努め、支援員の資質向上を目指し、適切な支援の提供につなげます。